

## 携帯電話の GPS 機能により心肺蘇生実施率が高まる

院外心停止の患者に対し、その場に居合わせた人（以下、バイスタンダー）が心肺蘇生を行うことで患者の生存率が上昇することが示されている。そこで本研究では、携帯電話使用者の位置情報を即座に特定できる携帯電話 GPS 機能を用い、院外停止の疑いのある患者の近くにいる心肺蘇生訓練を受けた人に連絡し、現場へ派遣することにより、バイスタンダーによる心肺蘇生実施率が上昇するかを検討した。

2012年4月～2013年12月にかけてストックホルムで二重盲検ランダム化比較試験を実施した。院外心停止の疑いの救急通報を受け、携帯電話 GPS 機能を使用して患者の500m以内に居合わせた心肺蘇生訓練を受けた市民ボランティアの位置を特定した。介入群の患者には、該当するボランティアに連絡し、現場に駆けつけるよう依頼した。一方、対照群の患者には、ボランティアに連絡しなかった。心肺蘇生訓練を受けた市民ボランティアの登録人数は、試験開始時は5,989人で、試験実施中に9,828人に増加した。携帯電話 GPS 機能が起動となった院外心停止は667件あり、介入群が46%（306件）、対照群が54%（361件）であった。バイスタンダーによる心肺蘇生実施率は、介入群で62%（305件中188件）、対照群で48%（360件中172件）となり、介入群のほうが有意に高かった（ $p<0.001$ ）。

したがって、携帯電話 GPS 機能を用い、院外心停止の患者のもとへ心肺蘇生訓練を受けたボランティアを派遣することで、バイスタンダーによる心肺蘇生実施率が上昇することが示された。

出典：The New England Journal of Medicine. 2015; 372(24): 2316-2325